関連施設便り

帝京大学ちば総合医療センター

〒299-0111　市原市姉崎 3426-3
TEL 0436-62-1211　FAX 0436-61-3961

帝京大学ちば総合医療センター肝胆膵外科の現体制は、田中邦哉教授、松尾憲一（講師）、廣島幸彦（助教）、笠原康平（助手）の４人体制で日々の診療・研究・教育をおこなっております。一方、消化管外科も幸田教授をはじめ６人、乳腺・甲状腺外科は宮澤教授、佐塚先生の２人であり、外科教室全体としては12人の医局です。

2016年の手術件数は約500例弱であり、そのうち肝胆膵チームの主要手術の内訳は、転移性肝癌31例、肝細胞癌４例、肝内胆管癌１例、肝門部領域癌１例、膵頭十二指腸切除５例、尾側膵切除３例などでした。肝胆膵外科の高難度手術は計32例、全体では60例の肝胆膵外科手術を行いました。その他、良性胆道疾患は26例であり、うち腹腔鏡下胆嚢摘出術は21例、開腹胆摘３例、総胆管切開切石術が２例とおよそ週１回程度の頻度で行っています。その他、廣島先生、笠原先生は消化管チームの手術にも入り、時には術者として多くの手術を経験させて頂いています。

学術関連では、肝胆膵外科チームの学会発表は58演題（シンポジウム４題、パネルディスカッション２題、ワークショップ４題、一般演題15題、ポスター７題）でした。田中教授の座長・司会は８題、講演・ランチョン11題と教授の発表が最も多く最も多忙です。論文発表は12題（英文10題、邦文２題）と忙しい臨床業務の中でも論文作成に意欲的に取り組んでいます。

帝京ちばでの３年間が過ぎ４年目となりましたが、「時の流れは本当に早く」なんてよく学校で校長先生が話していたようなことを、いま初めて実感しています。ここ帝京ちばでのALPPS手術も10例を数えるまでになりました。初めてのALPPS手術は雪の降る寒い日でした。田中教授の並々ならぬ努力とここに来てくれた若い医局員の力でこの４年を頑張ってきましたが、この４月から千葉大の肝胆膵チームへバトンタッチすることとなりました。赴任当初はCUSAもなく、術後のICU管理から輸液の組成、術前処置のすべてをチーム田中で作り上げてきまし

たが、今では当たり前のことが大変だったことが懐かしく思い出されます。ここで頑張ったことは一人一人がそれぞれの中で自信になったことと思います。またそれぞれの場所でTANAKAismのmindを胸に日々の診療・研究・教育に邁進していくことと思います。これも帝京ちばの医局員の皆さんと横浜市大第2外科の多くの方々のご協力・ご尽力のお蔭と思っております。本当にありがとうございました。

（文責：松尾憲一）

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター

〒245-8575　横浜市戸塚区原宿 3-60-2
TEL 045-851-2621　FAX 045-853-8359

国立病院機構横浜医療センターは、2010年４月に新装されて７年目に入りました。

当センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院に指定されています。救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高度総合病院として機能しています。

診療面は、関戸統括診療部長の御指導の下、大学から赴任された武田外科部長を筆頭に、計８人のスタッフが２チームに分かれて診療を行っています。2016年の手術件数は、年間666件でした。主な手術件数は、腹臥位胸腔鏡下食道切除再建３例、胃癌切除47例、大腸癌切除104例↑、肝切除33例↑、膵頭十二指腸切除18例↑、腹腔鏡下胆摘81例、開腹胆摘28例、虫垂切除50例↓、鼠径ヘルニア根治術112例↑でした。特に大腸癌手術数の増加が目立ち、ラパコロンの比率が85％以上に増加しました。

今年の話題として、外科の病院ホームページを充実させました。当院のがんに対する取り組みや、最新の手術実績を記載したことに加え、外科スタッフの顔写真とメッセージが入りました。会心の笑顔で写っている先生もいてけっこう楽しめます。

若手外科医にとっては、大小の腹部手術から外傷系の緊急手術まで幅広く執刀経験ができ、心臓血管外科（女子医大系）や呼吸器外科（一外）の手術にも入り易いこ

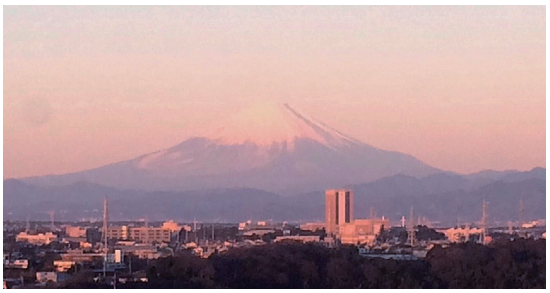
とから、外科専門医修得にとても有利な病院です。内視鏡外科トレーニングは、国立病院機構の全国規模の研修会があり、チームで毎年参加し、非常に成果を上げています。

研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、開腹操作やラパコレで胆嚢漿膜切開、CUSAで肝切離、鼠径ヘルニア手術を経験してもらっています。今年は例年より多い６人の研修医の先生が外科を回り、井上栞先生が入局されます。今後も外科医になる若手を増やせるように尽力していきたいと思います。

今年の写真は、病棟の窓から撮影した朝陽に映える富士山の絶景をご覧ください。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思います。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松田悟郎）



横浜市立市民病院

〒240-8555　横浜市保土ケ谷区岡沢町 56
TEL 045-331-1961　FAX 045-332-5599

平成28年の横浜市民病院は、３月に新病院の基本設計が確定し11月からは移転先である私有地の古河電工社宅の解体工事が始まりました。移転先は「現三ツ沢公園の一部及び隣接する民有地」です。平成29年秋には建設工事に着手する予定になっています。VRも作成され、新病院のイメージや職員患者の導線も明らかになりつつあり、平成32年度の開院にむけ病院全体が一丸となって取り組んでいるところです。

さて平成28年の外科は、消化器外科４人（大学ローテート1人）、炎症性腸疾患外科５人（大学ローテート1人）、乳腺外科２人（大学ローテート１人）のスタッフと５人の後期研修医（大学ローテート１人）、2ヶ月毎にローテートする３人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の３つに別れ、８年経過しました。2016年の総手術件数は、外科全体で前年をやや下回り1288例でした。内訳は消化器外科約728例、炎症性腸疾患外科約386例、乳腺外科約161例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年より減少しましたが、腹腔鏡下の手術の割合は71％と前年と同じでした。胃癌手術症例数も減少しましたが鏡視下手術は増加し、肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術を11例、腹腔鏡下肝切除術を６例行いました。乳腺外科は、手術件数が増加し、ほぼ全例でセンチネルリンパ節生検手術を導入し、地域連携パスの運用も増加させました。炎症性腸

疾患外科は、関東圏はもとより全国から患者を受け入れ、年々患者数、手術件数とも増加しています。

緊急手術は297例で前年より増加しましたが、急性虫垂炎は昨年の113例から93例と減少しました。予定手術が多く手術室も９室と限られているため、予定手術にできなかった症例をやもうえず時間外や休日に行ったためと思われます。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思います。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）

藤沢市民病院

〒251-8550　藤沢市藤沢 2-6-1
TEL 0466-25-3111　FAX 0466-25-3545

平成28年度の人事異動では、鈴木、森（８月就任）、松木（７月退任）、清水、田中が退任しました。この４名に代わり、峯岸、阿部、山田、木村の４名が着任し、上田、山岸、牧野、山本、中堤を加えた９名で診療しました。例年と同様に、峯岸、阿部、山田、木村が呼吸器外科と外科、消化器外科をローテートしました。また、２か月毎に卒後１年目、２年目の研修医がローテートし、手術・病棟管理を担当しました。

2016年１月～12月の主な手術件数は、乳癌83件、肺癌54件、食道癌３件、胃癌73件、結腸癌89件、直腸癌47件、原発性肝癌３例、転移性肝癌18例、胆道癌10例、膵癌10例、胆石症125例、虫垂炎79例、鼠径ヘルニア84例でした。今年度は、鼠経ヘルニアに対してTAPPを導入し、若手の腹腔鏡手術の修練の場となっております。また、上部消化管担当の牧野がガイドラインに則りLADGを本格導入し、今年は年間22例（DGの45.8％）に施行しました。大腸癌に対する腹腔鏡手術は119件（91.5％）となり、昨年同様年間100件を突破しました。肝・胆・膵は上田を中心に例年と同様の手術件数を行い、多発肝転移症例も術前化学療法後に積極的に切除し、適応を厳格にして腹腔鏡下肝切除術も施行しています。乳癌ではセンチネルリンパ節生検に対するガンマファインダーを新たに導入し、精度の高い手術を提供できる環境が整いました。今年の全体手術件数は792件で、前年より48件減少しました。主に減少した疾患は鼠経ヘルニアで、前年151件が今年は84件と67件も減少しました。原因は様々ですが、初診外来での対応が一つの原因になっていると思われ、改善に努めている最中です。例年通り、定時手術649件、緊急・臨時手術143件で、緊急・臨時手術が多い状況が続いています。保存加療となる緊急入院患者も多いのが実情ですが、救急科・消化器内科をはじめ、各科・各職種の皆様のサポートのおかげで手術に注力する体制が整っております。この場で深く御礼申し上げます。

本年度も地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」を夏休み期間中の８月に実行しました。外科は、腹腔鏡トレーニングキットと超音波凝固装置を用いての模擬手術を担当し、大好評でした。未来の医師、できれば外科医を目指してほしいものです。

学術関連は、学会発表が46演題（パネルディスカッション１演題、ワークショップ２演題、要望演題１演題）、論文発表が２題と昨年と同様であり、手術だけでなく学術面でも意欲的に取り組んでいます。また、例年同様に消化器内科、外科合同カンファレンスを地域の開業医の先生方と２か月に一度院内で開催し、紹介患者さんの情報交換と症例検討会を行っています。さらに、近隣病院との連携、親睦を目的に「湘南colon cancer conference」を今年度も開催し、がん総合医科学主任教授の市川靖史先生をお招きして最新の大腸癌化学療法－費用対効果の検討も含めて－についてご講演いただき、地域医療の発展に努めています。一方、外科医なので手術の手技向上のため、湘南西部の病院を対象にして年２回「湘南手術手技セミナー」を開催しています。これは手術ビデオを供覧して、普段聞くことのできないことや、他施設のやり方など多方面から吸収できる研究会で毎回好評です。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、支えていただいた多くの方々におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。　（文責：山岸　茂）

伊東市民病院

〒414-0055　伊東市岡 196-1
TEL 0557-37-2626　FAX 0557-35-0631

2016年の当院外科は、自治医大出身の児玉医師（H19）が３月で退職したため、消化器・腫瘍外科から私１人と、京都府立医大出身の城野医師（S59）の２名体制となりました。そのため、手術件数は前年265件に対して238件と減少しました。これは、２人体制のため断らざるを得なかった緊急手術の件数にほぼ匹敵しています。逆を言えば定時手術に関しては前年の３人体制と同じペースだったという事になります。

２人体制でどうやって乗り切ったかという事なのですが、2016年は当院関連施設からNurse Practitioner（診療看護師；以下NP）の派遣があり、外科診療を手助けしてもらいました。慢性的な医師不足に悩まされている地域病院の対応策のひとつとして勉強になりましたので簡単に紹介させていただきます。

米国では医師の診療補助としてNP、PA（Phisicians Assistant）等がチームを構成しています。日本の場合、医業は医師の独占業務であり他職種による代行は長い間禁じられていました。2008年に医師事務作業補助者に対する診療報酬が認められ、医師以外が診療録記載や処方等のオーダーを行えるようになりましたが看護師については2002年に静脈注射が認められた程度でした。

2015年に保健師助産師看護師法が改正され【特定行為に係る看護師】の認定が始まり、看護師であっても一定の講習を受け認定されれば、定められた38行為に関して医師の代行で医業をおこなってもよい事になりまた。38行為には補液の管理や抗菌薬の選択、褥瘡切開、抗癌剤漏出時の処置等があり、その一部での認定も可能です。現在活躍中のWOCや化学療法などの認定看護師も、今後特定行為認定を取得する方向、との事です。

毎年「伊豆は春の訪れが早いなあ」と感じます（１月末に撮影）。

日本版NPは、これと別の流れで生まれたのですが当初の思惑とは異なりNPの国家資格というものはなく、NPも【特定行為に係る看護師】の認定しか持っていません。違いは修練の期間であり、NPは看護師経験の後３年間の大学院を卒業、実地研修２年（専門科）をおこないます。

今回一緒に働いたNPは外科を専門としていて病棟業務のほぼ全般を任せられる知識とスキルを持っていました。病棟の発熱者の検査や（エコーも！）抗菌薬選択、ドレーン洗浄や抜去、術前術後の補液や血糖管理等、医局員並みの活躍でした。NCDデータマネージャ登録もしています。NSTや緩和等のチーム連携という面では、むしろ医者よりいいんじゃないか？という場面もみられました。

NPの派遣は１年限りなので、現在研修２年目の【特定行為に係る看護師】が、今後外科の戦力（NP並み！）になってくれるよう期待し、育成をおこなってまいります。

スタッフ減のため、これまで以上にNPを含めたチーム医療の大切さを痛感する一年でした。今年度も医師会の先生方からの紹介が増加し、また峠を越えて通院できないような高齢の患者さんも多くいらっしゃるため昨年の手術数くらいを最低値とした件数をこなしていかねばなりません。周術期管理で合併症を減らす努力も必要です。様々なスタッフと力を合わせて頑張りたいと思います。医局には手術指導等、力をお借りする事があるかと思いますが、御指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（文責：神谷紀之）

横須賀市立市民病院

〒240-0195　横須賀市長坂 1-3-2
TEL 046-856-3136　FAX 046-858-1776

横須賀市立市民病院は昭和38年12月市立武山病院として開院以来約50年になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

三浦半島の西海岸に位置し、西には豊饒の海相模湾を、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。（最上階から望む相模湾越しの富士山はなかなか良い感じです。）

首都圏のリゾート地、逗子、葉山は目と鼻の先で、美味しいもの好きにはたまらない場所も数知れずあります。

2016年度（平成27年度）の外科は病院管理者久保（昭50）以下、副院長・診療部長の亀田（昭63）、長嶺（平５）の他、個性溢れる以下のメンバーで日夜診療に励んでいます。

当院でしか通じない謎のニックネーム「ピーちゃん」泉澤（平16）は下半期から、10年ぶりに活躍しています。「博覧強記」山本（淳）（平23）は私生活も（個人情報ですので、詳細は本人に…）充実し、益々手術の腕を上げています。「流石っす」高橋（弘）（平24）は「ピーちゃん」と師弟漫才を繰り返しつつ、文字通り「流石っす」と言わしめる手堅い周術期管理を展開し頑張っています。さらに日大出身の「理論派」杉浦（平６）を加えた計６名で診療にあたっています。また、小暮（平22）も上半期当院で一所懸命に働いていただきました。現在は構成メンバー全員が家庭持ちとなり、各自家庭も大切にできるようお互いに融通してやっています。

高齢化社会の波を受けて、超高齢者や重篤な、あるいは複数の併存疾患を有する症例も多くなってきましたが、これら困難な症例にも外科チーム一丸となって対応しています。

年間の手術症例は400例ほどですが、ほとんどの術者は若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積めます。

若きローテーターの皆さん！是非我々と一緒に働いてみませんか。この相模湾に面した横須賀西海岸地区で、地域住民の皆さんから長く愛され、信頼されている病院です。必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。

そして、明るく、楽しく、激しい仕事の後にはグルメを堪能してください。（詳細は山本、小暮まで）もちろんデートスポットもたくさんあります（多分、詳細は小暮まで）。

当院は平成22年４月１日以降公益社団法人地域医療振興協会が指定管理する、所謂「公設民営化」病院へ移行しました。民営化後７年が経過し、久保管理者の強力なリーダーシップのもと着実な経営改善、健全化へと向かっています。これもひとえに、同門の先生方のご支援の賜物だと一同大変感謝しております。

以上、当院の近況報告を戯文にて失礼ながら紹介させていただきました。

同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：長嶺弘太郎）

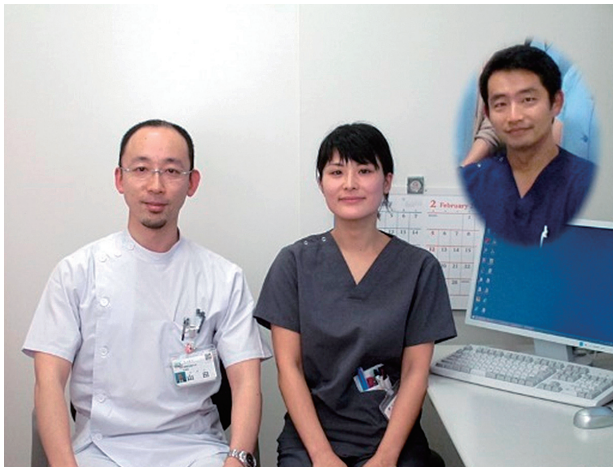
茅ヶ崎市立病院

〒253-0042　神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1
TEL 0467-52-1111　FAX 0467-54-0770

茅ヶ崎市立病院は、茅ヶ崎市、藤沢市、寒川町からなる湘南東部医療圏の中では充実した医療体制、設備を整えている茅ヶ崎市内唯一の400床以上の病院です。地域医療支援病院、災害拠点病院、DMAT指定病院等の機能を担っており、現在は地域がん連携指定病院取得にむけて取り組んでおります。これまでの一般外科（東京大学腫瘍外科）、呼吸器外科（東京大学呼吸器外科）に加えて、2016年４月に乳腺外科が新設され、山田顕光と三宅謙太郎が赴任いたしました。10月からは留学のため渡米した三宅謙太郎に代わり、三宅益代と二人体制で乳腺疾患の診療に従事しています。2017年１月からは日本乳癌学会専門医制度関連施設となりましたので、乳腺専門医の育成にも微力ながらも関わりたいと思います。

これまで当院の乳癌手術は年間20～50例で推移していましたが、乳腺外科創設８か月で50例を超え、今年度は80例前後になる見込みです。９月にはガンマプローブを導入し、色素RI併用のセンチネルリンパ節生検ができるようになりました。形成外科医不在のため乳房再建手術はできませんので、その分、整容性に気を遣った乳房温存手術行っています。また周術期の化学療法も積極的に導入しています。外来診察日は週４日あり、市内や寒川町からいらっしゃる初診患者さんに加え、外科の先生方から乳腺良性疾患・乳癌術後・進行再発乳癌のフォローなど多くの患者様をご紹介いただき、初年度にして多彩な患者様の外来診療を行っています。医師のカンファレンスは週に一度行っており、術前症例検討に加えて、術後の病理の確認および治療方針の決定、外来の問題症例の共有などを行っています。また月に一度、外来の看護師や薬剤師とともに乳腺外来カンファレンスを行い、情報の共有及びスタッフの教育に努めています。

10月に電子カルテ（NEC）が導入され、準備のため夏以降は慌ただしい雰囲気が続いていましたが、ようやく職員一同が新しいシステムに慣れて人心地ついたという状況です。またマンモグラフィー装置老朽化のため、12月にトモシンセシス機能を搭載したマンモグラフィー装置（Siemens）が新たに導入されました。茅ヶ崎市は神奈川県33の自治体のなかで最もマンモグラフィー検診受診率が低い地域です。宝の持ち腐れとならぬよう、検診受診率向上のため出張講座と銘打った市民講座を茅ヶ崎市内の公民館などで計６回企画し、市民への啓発活動に勤しんでおります。また同門会の大先輩であり茅ヶ崎地域医療の要である山岡博之先生の御厚意により、医師会主催・共催の講演会で発表の機会を頂き、地域の先生方とも面識を深め、連携強化に努めています。



院内においては病棟・外来スタッフ、病理部、放射線部、検査部、リハビリ部門等、様々な部署との円滑なチームを構築し、また院外においては開業医の先生方との連携を充実させ、地域医療に貢献する所存です。まだまだ若輩でありますゆえ益々の御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（文責：山田顕光）

横浜労災病院

〒222-0036　横浜市港北区小机町 3211
TEL 045-474-8111　FAX 045-474-8323

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院として1991年に開設されました。2012年４月に乳腺外科が新設され、横浜市立大学消化器・腫瘍外科学の教育関連施設として診療を開始しました。さらに2015年８月からは外科（主に消化器外科を担当）にもスタッフが増員されたため乳腺外科３名、外科１名となり、横浜市立大学消化器・腫瘍外科学からの医師派遣は４名体制で乳腺外科・一般外科診療にあたっています。2017年度からは、新たに外科（肝胆膵外科）へ１名の増員が決まっており、消化器・腫瘍外科学の教育関連施設として更なる飛躍が期待されます。

乳腺外科における2016年１月から12月の手術実績は、悪性疾患の根治手術が255件で、良性腫瘍、炎症疾患、リンパ節生検などを含めると手術総数は321件でした。その他にも、画像ガイド下組織生検の90件を含めると、乳腺外科単独でのNCD登録数は400例以上となっています。また、形成外科との連携による一次乳房再建（乳房切除との同時再建）は63件であり、県内でも有数の乳房再建施設となっています。当院の過密診療を非常勤でお手伝いいただいた原田郁先生、和田朋子先生、押正徳先生には心から感謝申しあげます。

近年、当院を取り巻く周辺施設では、乳がん診療レベルの向上と症例数の増加をめざした組織再編が進んでおり、多職種が協働するブレストセンターや、腫瘍を中心に女性特有の疾患を扱うレディスセンターなど、新しい診療体制の構築が急速に広がってきています。その流れを受けて、当院でも「患者中心の乳がん診療」を充実させるために、2017年度から包括的乳腺先進医療センター

（ブレストセンター）を設立することになりました。ブレストセンターには、看護師による「がん看護外来」のほか、薬剤師による「服薬・副作用管理外来」や、ソーシャルワーカーによる「就労支援室」なども設置する予定です。横浜労災病院のブレストセンターでは、最新の乳がん治療はもちろんのこと、治療の障壁となる諸問題に対しても積極的に患者支援を行っていきます。

これからも横浜市、神奈川県の乳がん治療を牽引し、横浜労災病院が消化器・腫瘍外科学の教育関連施設として「魅力的な病院」となれるように、患者中心の医療をめざして頑張りたいと思います。

（文責：千島隆司）

横須賀共済病院

〒238-8558　横須賀市米ヶ浜通 1-16
TEL 046-822-2710　FAX 046-825-2103

横須賀共済病院では、横須賀市、三浦半島における地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として急性疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

2014年４月に長堀薫先生が病院長に就任され外科全体がさらに活気づいております。一つの大きな方針として、院長は「若手外科医が楽しんで仕事をする、救急は全応需する」ことを強調されており、スタッフは以前よりさらに多くの手術を経験しています。当直後はスタッフ同士が業務を補完しあいながら、off dutyの義務化を推進し（まだ不十分な点も多くありますが！）、最近は、休日に研究会のお手伝いや、ラボの指導に出席した場合、平日に休みをとれるようになってきており、仕事とオフどちらも充実させられるように試行錯誤しております。休暇は年３回で、夏季休暇（９日間）、病院旅行という名称の休暇（４日×２回）があり休暇も十分とれます。

今年度も腹腔鏡手術が手術の主体を占めており、ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患から胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵体尾部癌などの悪性疾患まで、手術の多くが鏡視下で行われています。この流れは外科だけでなく、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、脳外科、整形外科など他科にも広がっています。

術後のフォローアップは従来通り横須賀市医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適用しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期患者はほぼ全症例紹介いただいた先生方に見ていただくことが可能となっております。現在は胃癌、大腸癌術後の補助化学療法に対する地域連携パスも導入してきており、今後さらに地域の中核病院として、外科専門研修プログラムにおいては専門研修基幹施設として、役割を果たしていきたいと考えております。

学術関連は、地域診療所の先生方、病理、内科、外科合同の消化器病カンファランスを定期的に行なっており、さらにそれを発展させた形で年２回横須賀消化器病セミナーを行っています。また、今年度も横須賀共済病院を筆頭とする学術集会総会の発表がさらに増えており、学会中の手術数の制限と人員不足がひとつの課題となりますが、若手外科医にとってよい刺激の場となるため、今後も両立していくことが必要と考えています。

今年度の診療体制も昨年と同様に、舛井部長、茂垣部長のもと平成12年から19年までの比較的若い中堅医師をオーベンとした若手外科医中心の診療が行われています。今年の新規シニアレジデントは１名であり、医局からの派遣医師１名と合わせて卒後５年以下の外科医が８名と診療の中心となっています。救急患者数も非常に多く、高難度な手術から緊急手術まで幅広く経験することができる忙しくもやりがいのある職場であると実感しています。

今後も地域医療支援・がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献し、さらにより高水準の医療を提供できるよう精進していきたいと考えておりますので、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いします。

（文責：木村　準）

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682　横浜市中区新山下 3-12-1
TEL 045-628-6100　FAX 045-628-6101

横浜市立みなと赤十字病院は横浜市立港湾病院と横浜赤十字病院の機能を継承し、2005年４月に開院した公設民営化の病院です。

2015年４月から、外科では杉田光隆、小野秀高、中嶌雅之、柿添学、高橋直行、杉政奈津子、鳥谷建一郎、大石裕佳とシニアレジデント２名の10名が肝胆膵Group、上部Group、下部Groupの臓器別３チームに分かれて診療にあたっております。乳腺外科では清水大輔、シニアレジデント１名と東京医科大学の石川先生の教室から１名の計３名が、緩和医療科では小尾芳郎が日々の診療にあたっています。また、本年度も引き続き、がんセンター長の阿部哲夫が、非常勤として月曜～水曜に、外来・手術のお手伝いをして頂いており、毎週水曜日には関沢クリニックから高橋徹也先生に来て頂いて大腸肛門疾患について外来・手術をお願いしております。当院では、殆どの１年目の研修医の先生が外科を選択していただくため、常に各チームに１－２人が一緒に診療にあたっております。

当院は、救急車の搬送が日本で1,2位を争うほど多く、基本的に救急搬送依頼を断らないことを基本としておりますので、当然ながら緊急手術が多く、絞扼性イレウス、消化管穿孔、急性虫垂炎などの緊急手術が多いのが特徴です。

一昨年度より救急科に馬場裕之先生が救急外科部長として来て頂いたため、日中の緊急手術は、予定手術を待たずに行うことが出来るようになり、以前の緊急手術が夜間になってしまい、帰りが遅くなってしまうことは少なくなりました。一方で、若いスタッフが多いため、相変わらず術者になる機会も少なくなってしまっているのは否めません。しかしながら、各々の臓器のスペシャリストが若手外科医の育成できる教育システムを充実すべく努力しております。

シミュレーションセンターも申請すれば使いたい放題で、LAP Mentorも常備されており、腹腔鏡のトレーニングも行うこともできます。

高齢者や全身状態が不良な患者様が多いのも当院の特徴で、術後の集中管理に関しては、ICUの先生方にも協力していただきつつ、治療を行っております。

また、当院は平成2012年４月から地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、毎週火曜日に消化管キャンサーボードを、毎月第２水曜日に肝胆膵キャンサーボードを開催しており、消化器内科、病理、放射線科の先生方も含めて、活発な討議がなされております。

腹腔鏡下手術も積極的に導入しており、上部消化管では約1/3が、下部消化管では９割が腹腔鏡下手術を行っております。特に、結腸・直腸の腹腔鏡下の手術が100件以上行っております。腹腔鏡下手術の導入が遅れた半面、手術機材は5mmのフレキシブルスコープ、AirSeal、録画装置などの最新のものが揃っております。さらに、一昨年度導入したDa Vinciは、泌尿器科ではコンスタントに手術が行われております。

院内のハード面も充実しており、術前検査を全て組んでも１週間はかからずに終わる事ができ、MRIやPET/CT等の検査に関しては、他院からの予約を受け付けることも出来ます。

一方で、立地条件で交通の便が悪いというビハインドも否めず、地域の先生からの紹介もしてもらいづらいという事もありますが、地域連携パスを積極的に導入して、術後は紹介元の先生と連携してフォローアップをさせて

頂いております。

地域の先生方との連携としては、年２回、横浜消化器疾患研究会や病院主催の医師会との合同研究会などを開催しており、交流を図っております。

外科の週間予定は、月曜日の朝に全体患者の経過のカンファレンス、火曜日の夜に術前カンファレンス、消化管キャンサーボード、水曜日の朝に病棟師長とベットコントロールを含めたカンファレンス・抄読会、木曜日の朝に術後報告を行っており、火曜日以外は毎日手術日となっております。

医局はオープンな総合医局で、診療科で固まらないように配置されているため、他科との交流・意思疎通の良さが感じられます。医師の数は年々増加しており、それに伴って医局の部屋が３つにまで増えてしまいました。

さらなる地域医療に貢献すべく、質の高い医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存ですので、今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：小野秀高）

済生会横浜市南部病院

〒234-0054　横浜市港南区港南台 3-2-10
TEL 045-832-1111　FAX 045-832-8335

済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うとともに、「地域医療支援病院」として地域医療機関との病診連携も推進し、2013年４月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、がん診療支援センター（センター長：池秀之先生）を設置し、大腸がん・胃がん術後の診療連携パスも積極的に活用し、がん診療体制の充実を計っており、地域との連携活動としては、合同カンファレンスや緩和ケア研修会等も継続して行っています。加えて、2015年１月よりYOKOHAMA Colorectal Cancer Seminarを定期的に開催し、本年は高齢大腸がん患者さんの治療戦略をテーマに多職種間並びに病病連携を深めることに努めています。また、市民公開講座や、南部病院コンサートとして各種のコンサートに加え、ブラックジャックセミナーも今回で６回目となり、港南区内の中学生に参加していただき、内視鏡トレーニング体験、手術シミュレーター体験、手術縫合やエナジーディバイスの使用体験等を行い、地域に根差した活動を行っています。

当院の特徴は第二外科と第一外科の両方から派遣されている関連病院ということで、病院長は第一外科の今田敏夫先生、がん診療支援センター長・診療顧問は第二外

科の池秀之先生です。外科スタッフは第二外科からは福島忠男、長谷川誠司、嶋田和博、高川亮、有坂早香、須藤友菜の６名、第一外科からは平川昭平、村上仁志、林勉、嶋田裕子、瀬上顕貴、橋本至、古波蔵かおりの７名、さらに救急から出向して頂いている横井英人先生の計14名の医師が在籍する、院内でも大所帯の一つです。今年も緊急手術は多く、昼夜にわたり両外科スタッフが一体となって手術に従事しています。一方、術後在院日数の短縮にも努力し、クリティカルパスを見直しつつ、胃癌で9.4日、大腸癌で11.5日（人工肛門管理を含む）、乳癌で5.0日、甲状腺癌で3.9日、また、ヘルニアで1.1日、胆嚢摘出で4.5日、虫垂炎で5.8日と成果を挙げてきていることを実感しています。

2015年の外科手術は1203件で例年の1100件/年程度の手術に比し、増加しています。鏡視下手術は、昨年は若干減少していましたが、大腸癌では約50％、胃癌の約35％と若干上昇し、虫垂炎は待機的虫垂切除を含め、鏡視下での手術が増加しました。鼠径ヘルニアでも鏡視下手術が50％に迫っており、若手スタッフの鏡視下手術の修練も順調に行えているものと思っています。乳癌は70例に加え、甲状腺も109例と多数行っており、多岐の領域に及び手術を行っていることも当院の特徴と思っています。

手術だけでなく、化学療法も積極的に行っており、年々症例数が増加しているなか、外科外来・外来化学療法室・がん化学療法認定看護師、薬剤師とともに外来化学療法カンファランスを継続していましたが、本年からwebカンファレンスも取り入れ、多職種間のスキルアップも図っています。

また、研修に来ていただける医師も安定してきており、鼠径ヘルニアや虫垂炎等の手術も積極的に行って頂いています。さらに、学術指導も成果を継続しており、神奈川県臨床外科集談会のレジデントプレゼンテーションでは、一昨年の銅賞、金賞、昨年の銀賞に続き、今年も銀賞と連続して表彰して頂き、今後の研修医指導の糧となっています。

今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者さんたちの信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していきたいと思います。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

（文責：長谷川誠司）

済生会若草病院

〒236-8653　横浜市金沢区平潟町 12-1
TEL 045-781-8811　FAX 045-784-5443

当院の前身は西区岡野町にあった恩賜財団済生会神奈川県病院（大正２年９月設立）で、昭和20年の横浜大空襲により焼失後、昭和21年４月15日金沢区平潟町の旧海軍釜利谷工員宿舎を仮病院として診療を再開し、これが現在の済生会若草病院に至っているという歴史のある病院です。

現在15の診療科と一般床165床、療養病床34床、計199床の病床を有し、急性・慢性疾患を問わず対応できる地域密着型病院として稼働しています。当院外科が横浜市大からの派遣となり本年で10年目となりますが、部長の佐藤靖郎先生が昨年10月に退職されたため、現在は暫定的に吉田謙一と、昨年４月から赴任された山口直孝先生、そして外来を担当して頂いている非常勤の先生４人の計６人体制で外科の診療にあたっています。

当院での手術は基本的に横浜市大病院、横浜南共済病院ですみやかに施行困難な症例が中心で、昨年は年間203

症例を経験しましたが、そのうち鼠径部ヘルニア手術が主で154例（腹腔鏡74例、鼠径部切開法80例）、腹壁瘢痕ヘルニア手術が９例でした。ヘルニア手術も、日々進歩しており、多くの症例を経験させて頂いていることからも当院で得られた知見は、積極的に学会などで報告させて頂き、少しでも腹壁外科の進歩に貢献できればと考え

ています。昨年はThe 12th International Congress of the Asia Pacific Hernia Society, October 27-28, 2016, Tokyo, Japanなどで発表させて頂きました。

近隣の病院、開業医との間に緊密な関係を築く事にも力を注いでおり、平成22年より横浜市大病院との間に癌連携病院の契約が交わされており、療養に時間を要する症例、入院化学療法を希望する症例、癌の術後再発・非切除で緩和医療を要する症例など大学病院では対応困難な症例に対して積極的に受け入れを行っています。また平成27年12月より乳腺外科外来が開設され菅江先生が定期的に診療されています。神奈川県立循環器呼吸器センター、横浜南共済病院との連携では近接した地理性、異なる専門性を生かして、地域医療への貢献にも力を注いでいます。平成28年には電子カルテも導入されました。

平成29年は昨年同様ヘルニアセンター、内視鏡センターの発展、横浜市大病院との癌連携病院としての機能向上も含め、更なる飛躍の年であるよう、診療の質の向上と機能拡充とを目指しておりますので、今後とも御指導、御鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。

（文責：吉田謙一）

地域医療推進機構（JCHO）
横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585　横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1
TEL 045-331-1251　FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院となり３年目となりました。全国57病院が参加しての地域医療推進機構（JCHO）の一員です。病院規模は変わらず許可病床数260床（稼動病床数246）で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。昨年度は新たにHCU病棟が２部屋、８床稼動を開始し、重症患者さんや術後患者さんの管理が強化されました。

H28年度、外科の体制としては、上向伸幸先生が部長に就任されてから２年目となりました。診療体制は上向部長のもと、齋藤健人（H７年、血管外科部長）、谷口浩一（H11年）、小澤真由美（H15年）、高畑太輔（H25年）の５名でしたが12月より小澤先生が産休に入られ、その後は４人体制となりました。小澤先生には産休に入る直前まで良く働いていただきました。現在は４人体制のため、並列手術の際には腹腔鏡下胆嚢摘出術でカメラ持ちと助手を兼任するなどの工夫をこらし何とか手術数を減らさないように努力しております。横浜市大・形成外科には形成外来を担当していただいており、こちらは継続していただいています。例年同様佐武先生には乳癌術後の形成手術をお願いし、週２－３例の手術を行っています。

外科病床は36床、対象疾患は例年同様で消化器癌が中心ですが呼吸器疾患（気胸、肺転移）、血管外科（AAA、ASO、シャント、下肢Varixなど）の治療も行っております。当院の特徴としては、比較的血管外科の症例が多いので外科専門医を目指す若い先生方にとっては症例をかせぐという意味でもいいのではないかと思っております。

本年の手術総数は425件で例年よりわずかに減少しましたが、一昨年導入した腹腔鏡下ヘルニア根治術も順調に増加しており、他疾患に関しましても腹腔鏡手術を引き続き積極的に取り入れていこうと考えております。月別手術件数は７月に20例と減少してしまいましたが、その後は８月以降年末にかけて31例→26例→28例→36例→30例と持ち直し、この１月も外科医４人ながら並列で肝切除や腹腔鏡手術を行わなければならないなど、外科のactivityは順調に回復しています。

本年は一時的にactivityが低下したと思われた時期もありましたが、外科一丸となり何とか回復基調に乗り、ここ最近は以前よりもむしろより忙しいと感じられる毎日です。来年はまた医局の先生方のお力をお借りし、周辺地域の医療機関との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考えております。益々のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

（文責：谷口浩一）

横浜掖済会病院

〒231-0036　横浜市中区山田町 1-2
TEL 045-261-8191　FAX 045-261-8149

平成28年４月から佐藤芳樹（副院長）、森岡大介（部長）、浅野史雄（平成17年卒）、大山倫男（平成18年卒）の常勤４人で診療を行っています。

近隣で開業されている籾山信義先生が主に乳腺の手術指導、三浦勝先生が主に腹腔鏡視下大腸手術の指導に来てくださっており、常勤医の専門（佐藤→消化管・肛門、森岡→肝胆膵）と合わせると基本的に一般消化器外科で扱うすべての疾患のspecialistがそろっていると考えて差支えないと思います。また当院のスタッフだけではできないような手術でも、上部消化管の鏡視下手術は南部病院の高川亮先生、低めの直腸の鏡視下手術はセンター病院の諏訪宏和先生、など他院のspecialistにお越しいただきご指導・ご執刀いただいております。またようやくではありますが鼠径部や腹壁瘢痕ヘルニアの鏡視下手術も標準化に至り、ICUがない、常勤の循環器医が不在など病院の特性上重篤な並存疾患がない方に限られますが腹部消化器外科領域においてできない手術は現状ないと思っております。

普段手術の指導をしていて感じるのは、忙しい基幹病院では手術数をこなさなければいけないため血管をきちんと認識した郭清手技や肝門部の血管露出などは時間的制約がありじっくり指導することができないのかなあ、と思っているのですが当院は時間があり手取り足取り指導できますので、数は稼げませんが少し面倒な手技をじっくりやるにはよい環境ではないかと思います。また肝胆膵領域の癌に対する手術は、標準的な症例では執刀のチャンスも与えています。かなりの拡大手術でもできるだけ前立ちで参加してもらうよう心がけていますので、症例さえあればという但し書きは付きますが、肝胆膵領域癌に対するきちんとした手術も経験可能です。

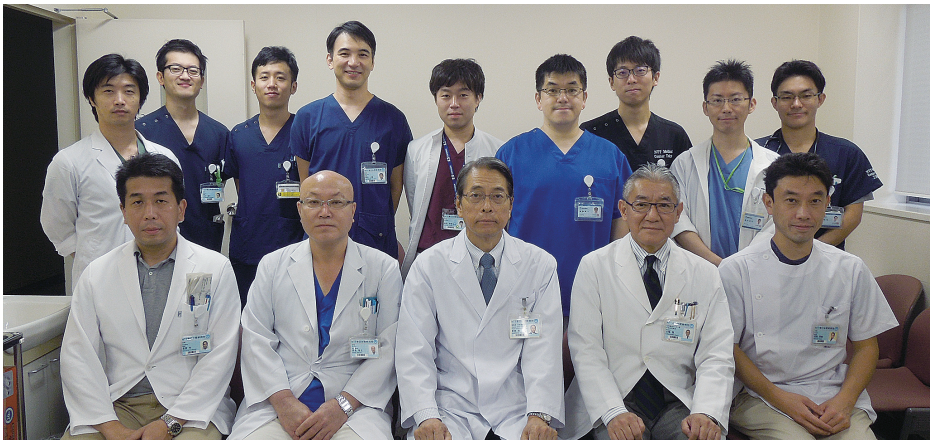
化学療法、terminal careなど癌再発後の医療も積極的に行っていますので、oncologistとしてのtrainingを初診からお看取りまで総合的に行える環境にあると思います。また当院最大のセールスポイントは時間的ゆとりのある病院であるため、１例１例について熟考熟慮しながら症例に応じたきめ細かい医療を行えることと同時に、手術数は決して稼げませんがskin-to-skinにわたって薀蓄にあふれた手術指導を行っており、かつて在籍した若手の先生方のほとんどから“こんな手術をしたのは初めてです”というお言葉を頂戴していますので他の病院ではできていない若手医局員の教育を行えているのではないかと自負しております。

当院のような中小の急性期病院は消えゆくしかないかのような制度改革がなされている昨今で、実際に患者さんの数も減っておりなかなか苦しい状況ではあります。しかしながら、大病院であるが故の小回りの利かなさで近隣の大病院で診きれない患者さんのbackupを行いながら近隣の開業医の先生方が気軽に紹介できるという当院ならではのmeritを生かし、2020年の新病院への移転へ向けて今後もなお一層努力を続け患者さんだけでなく医局員のみなさんにも魅力的な病院にしていきたいと思います。

（文責：森岡大介）

NTT東日本関東病院

〒141-8625　東京都品川区東五反田 5-9-22
TEL 03-3448-6557　FAX 03-3448-6558



NTT東日本関東病院の近況報告です。横浜市大からは古嶋薫先生（S54卒）を筆頭に、渡辺一輝（H11年卒）、関澤健太郎（H19年卒）が勤務しており、医局からは３名の体制となっております。基本的にわれわれは下部消化管手術（肛門・大腸疾患）を中心に診療にあたっております。

大腸癌手術は200例弱/年を維持しており、都内でも症例数の多い施設です。消化器内科で内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もあります。しかし、都内では病院選択の意識の高い患者さんが多く、近隣には有力な病院も多いことから、簡単に患者さんは他の病院に流れていってしまいます。患者さんに選んでもらうためには、魅力的な診療体制の整備や、最新の手術の導入なども必要とも考えますが、やはり一番大事なのは人と人との関係だと思います。今まで出会ってきた患者さんを丁寧に診察し良い関係を築くこと、適切な治療を行って他科の医師に信頼してもらうこと、そういうひとつひとつの積み重ねが次の新しい患者さんとの出会いにつながっていくのだなあと実感しています。今後も丁寧な診療を継続していこうと思う日々です。病院では、最近は外科を希望する後期研修医が減ってしまい、マンパワーがないながらも皆で多くの症例の治療にあたっています。逆に人が少ない分、若い先生にはさまざまな経験のできる施設ですので、ぜひ一緒に働きましょう。

（文責：渡辺一輝）

長津田厚生総合病院

〒226-0027　横浜市緑区長津田 4-23-1
TEL 045-981-1201　FAX 045-983-3647

長津田厚生総合病院は、日ノ出町に昭和22年に診療所として開設し昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が前身です。その後横浜市北部の開発に伴い昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、そのうち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。健診センターや人工透析センターも併設されており、地域にとけ込んだ病院として機能しています。また、消化器病センターでは内科と外科の垣根を取り払い、消化器疾患に悩む患者様の視点での治療体制を確立するよう努めています。

外科は外科部長の簾田と昨年に引き続き三邉が診療を行ってきました。２人体制なのは変わらないのですが、腹腔鏡手術を積極的に行うこととし、胆嚢摘出術はもちろん胃癌や大腸癌は基本的に腹腔鏡下に手術しています。また虫垂切除術も単孔式腹腔鏡下に行い、さらに鼠径ヘルニアも腹腔鏡での手術（TAPP）を行っております。ただ胃や大腸の腹腔鏡手術の際にはどうしてもscopistが必要となるためその都度大学に医師の派遣を依頼することになり、ご迷惑をおかけして大変申し訳ありませんでした。

症例数は十分とは言えませんが、2016年は昨年より20

例増加し147例の手術を施行しました。内訳は鼠径ヘルニア34例、虫垂切除術15例、胆嚢摘出術20例、結腸・直腸癌切除術17例（うち腹腔鏡は14例）、胃癌切除術６例（うち腹腔鏡は３例）などです。多くの中小規模の病院と同じく高齢で合併症のある症例が多いのですが、積極的に手術をこなしてまいりました。

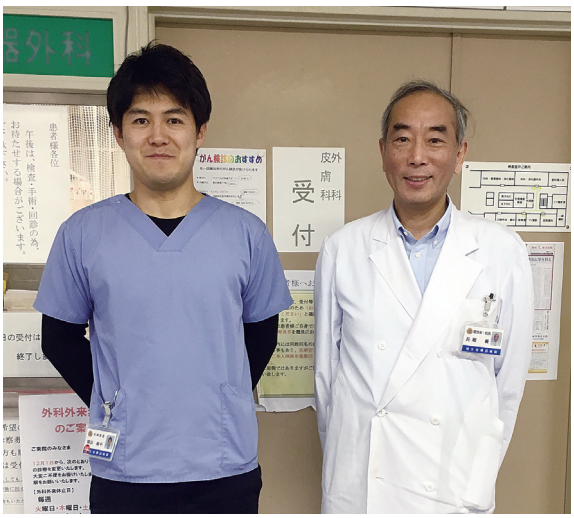
さらに外科では入院患者数増加の一環として末期癌患者の終末期・緩和医療にも力を入れており、近隣の病院からterminalの患者を積極的に引き受けさせていただきました。

私立病院の宿命ですが、私達は絶えず集患に知恵を絞ってきました。病診連携講演会を開き、開業医の先生をお呼びしての講演会や病院の宣伝を行いました。また病院の全面改築については数年来構想が練られてきており、いよいよ2017年２月より着工となる予定です。新病院が完成すれば患者数もぐんと増加することが期待され、当院の医療の質の向上とさらなる発展につながるものと願っております。

（文責：簾田康一郎）

一般財団法人 育生会横浜病院

〒240-0025　横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7
TEL 045-712-9921　FAX 045-712-9926



育生会横浜病院は、昭和21年９月、戦災により医療機関がほぼ壊滅し、医療、分娩に窮乏する横浜の状況を憂慮し、初代理事長碓井貞義氏が中心となって創立された財団法人が礎となっており、平成28年に創立70周年を迎えました。設立当初より、通常の医療活動に加え、社会福祉事業法の定めによる無料低額診療事業、特に乳幼児の保健と保育に力を注いできました。そのため、「生まれ育てる会」の意味から、法人名が「育生会」と命名されました。

平成７年、横浜駅西口に程近い岡野町に開設された病院を保土ヶ谷区狩場の現地に移すにあたり、今後日本において極めて重要となる高齢者医療に重点を移すべく、医療・保健・福祉が隣接する他に類のない複合施設を開設しました。この時期における母子医療から老人医療への転換は、じつに先見性のある決断でした。創業碓井家のその理念は、来院高齢者の利便を図るために院内の坂道に敷設されたモノレールにも反映されています。また働く女性や高齢者に配慮した職場環境が評価され、４年連続、通算５回のよこはまグッドバランス賞を受賞しています。

現時点において私が考えている当院の方向性についてご紹介いたします。医療の大きな柱は、治療（cure：キュア）と介護・養護（care：ケア）の２つのＣとされますが、この先、急速に高齢化が進むとされる将来の日本においては、careもたいへん重要になってくることと考えられます。いかにcureが進化しても、100％必ず人間は死を迎えなければならないという現実を見据えれば、「患者さんがいかに自分らしく、どのように生涯を全うできるか」を考えながら、患者さんに寄り添い支えるcareを誰かが担っていく必要があります。cureの最前線で激務をこなしてきた外科医がやるべき業務なのかと思われる方も多いでしょうが、死と真摯に向き合ってきた外科医だからこそcareの現場で果たすべき大きな役割があると私は考えています。今後開業を考えるドクターにとってもこの分野は決して無視できないはずです。

その点において、当院は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、患者さんやご家族を支える訪問診療を早くから導入しています。さらに同じ敷地内に病院、特養、老健を併設していますので、日本が直面する超高齢化社会において、地域医療ケアの中心となって貢献する使命があるものと考えています。

このような理念のもと、平成28年２月より、地域包括ケア病棟を開設したところ、病病連携、ならびに在宅ドクターとの病診連携や地域の訪問看護ステーション、ケアマネージャーなどからの引き合いが一挙に増え、入退院数はそれぞれ倍増しました。

その内訳をみると、急性期病院での治療が終わった高齢者の後急性期医療、末期がん患者の看取り、地域からの緊急入院（熱中症、誤嚥性肺炎、脱水、老衰など）に加え、介護患者の一時預かり（レスパイト入院）などとなっており、急性期病院では受け入れにくい高齢患者が受け入れられていることがみてとれます。

退院についても、院内療養病棟（在宅復帰機能特別加算を取得しており、転棟イコール退院扱いとなる）、隣接の施設、グループホームなどへの転所、さらには在宅医への紹介など、さまざまなルートを通じ、地域へお返しするよう努めています。

このように地域包括ケア病棟は順調に稼働し始めたものの、実務面ではまだ模索するばかりです。この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療充実のため頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

写真は、育生会70周年を記念し、鉄道ファンの理事長の発案で湘南電車色にリニューアルされた当院のモノレールです。ぜひ一度乗りに来てください。

（文責：長堀　優）

港南台病院

〒234-8506　横浜市港南区港南台 2-7-41
TEL 045-831-8181　FAX 045-831-8281

2013年４月より大塚が赴任しており、今年で４年目を迎えました。

引き続き、大学医局からは、松山先生、熊本先生、山口先生に外来、訪問診療などを担当していただいております。また若手の先生方、南部病院の先生方には、当直業務、外来診療に加え、グループ内の介護老人保健施設ひとりざわの担当など多数お手伝いいただいており心より感謝申し上げます。

自宅への訪問診療や、施設における訪問診療はさらに増加しており、平成28年12月現在で自宅への訪問で106名、施設への訪問で337名の方の診療を担当しました。有床病院で行っている訪問診療ですので、患者さんの重症化やお看取り目的で入院となるケースが多いとはいえ、年間で44名の方のご自宅や施設でのお看取りを担当しました。

また、今年新たに始めた事業として、横浜市の内視鏡による胃がん検診への参加があります。７月より参加し、12月末までに89例を担当しました。このうち３例が胃癌の確定診断となりました。他の自治体（金沢市など）の報告によれば、自治体主催の胃癌の内視鏡検診における胃癌の発見頻度は0.3％とされているため、比較的高い発見頻度となっており、今後の推移をみていきたいと思います。

これからも今までと変わらず「困ったときには港南台病院にちょっと相談してみよう」という気軽な感じでご相談下さい。何かのお役にたてるものと思います。よろしくお願い致します。

（文責：大塚裕一）

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041　横浜市西区戸部本町 19-11
TEL 045-321-7311　FAX 045-321-7330

医療法人恵仁会には現在同門会の医師５名が勤務しています。松島病院には松島　誠理事長、長谷川信吾、松島ランドマーククリニックには松村奈緒美、松島クリニックには福島恒男先生、深野雅彦が所属しています。

松島病院では昨年4798例の手術を行いました。手術に関しても従来の手術方法ばかりでなく様々な方法を取り入れています。痔核手術では従来の結紮切除法やALTA療法の他にイタリアで開発されたHemorPex System（HPS）を導入しました。また、痔瘻では最先端の経肛門的超音波検査装置を使用し、従来の肛門指診のみよりも飛躍的に診断能が上がりました。現在ではこうした画像診断を基に新しい括約筋温存手術（FPOT-2）を積極的に行っており、良好な結果を得ています。さらに、一昨年に排便機能センターを開設し、大腸肛門の機能を重視した専門的な診断と治療を行っております。肛門内圧検査、筋電図検査、排便造影（デフェコグラフィー）等の検査を行い系統的に診療しています。便失禁に対する仙骨刺激療法（SNM）が保険収載され、当院でも行っています。当院は以前から難治性肛門疾患の患者を多数紹介頂いています。現在、毎週院内で症例検討会を開き、こうした難治性肛門疾患や珍しい病態等の治療方針を決定しています。

松島クリニックでは主に消化器疾患の診療と人間ドックを行っています。消化器疾患の診療では特に内視鏡診断と治療とIBDの治療を行っています。また、近年広く行われているcold snare polypectomy（CSP）を一昨年から開始しています。昨年の実績としては、大腸内視鏡検査を24035件行いました。そのうち従来のポリペクトミー、EMR、そしてESDを合計2355件施行し、CSPは約2800件行いました。上部消化管内視鏡検査は6046件施行し、カプセル内視鏡を22件行っています。また、IBD疾患は福島先生が中心となり約1250名の患者の診療を行っています。

松島ランドマーククリニックは平成18年に女性専門の肛門科外来施設となり10周年を迎えました。

昨年、松島善視前理事長が亡くなりました。その際は多くの先生から御芳志を賜りまして、誠にありがとうございました。今後は松島　誠理事長以下職員一丸となって、大腸肛門疾患の基幹病院として益々頑張っていく所存でございますので、引き続きの御指導御厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（文責：深野雅彦）

辻仲病院柏の葉

〒277-0871　柏市若柴 178-2　柏の葉キャンパス 148 街区 6
TEL 04-7137-3737　FAX 04-7137-3738

皆様お元気でしょうか。辻仲病院柏の葉の浜畑です。最近は当院の周囲の環境もだいぶ変化してきました。開設当初は周囲にあまり建築物もなく冬の晴れた日などは富士山や那須や日光のほうの山々までくっきり見えておりましたが、いまや30数階建てのマンションが4か所もあり景色も限定的にしか見えなくなりました。でもまだ筑波山はよく見えます。

東京大学や千葉大学のキャンパスもあり学園都市としても魅力はあるように思います。人口も増え、特にお子様が増えていることもあり周囲の学校は対応に苦慮しているようです。特に待機児童の問題もこの地域では深刻と聞いております。

病院のほうは特に変わりなく診療を続けております。骨盤臓器の疾患、消化管の疾患を中心に診療を続けております。また緩和ケア病棟も順調に機能しており、講習を受けに来る看護師も多数おります。骨盤臓器脱手術は経腟的にも腹腔鏡下にもできる体制になり、直腸脱や大腸癌、婦人科疾患も腹腔鏡下で手術する症例数がかなり増えております。技術認定医は３名おりかなり充実してきているとは思います。

内視鏡の件数も毎年順調に増加しており先生方の技量も向上しているのか増加の割には仕事は楽になっています。

最近は国立がんセンター東病院の大腸外科の先生方と特に術後の排便機能障害に対して連携をおこなっております。がんセンターではISRの患者様が多く、LARｓも含め時として排便機能が低下することがあります。このような方に食事療法や薬物療法、バイオフィードバック、

場合によっては仙骨神経刺激療法を行い機能改善をはかるように努力しているところです。

横浜から遠く、なかなかお会いする機会は少ないですが今後とも、当院、東葛辻仲病院、辻仲柏クリニック、アルト新橋クリニック、辻仲つくばクリニックともどもよろしくお願いいたします。

（文責：浜畑幸弘）

藤沢湘南台病院

〒252-0802　藤沢市高倉 2345
TEL 0466-44-1451　FAX 0466-44-6771

藤沢湘南台病院の外科は、旧第１外科から総院長、院長はじめスタッフ計９名で本年度は診療にあたっています。

上部・下部消化管や肝胆膵の悪性疾患、鼠径ヘルニアや胆石・胆嚢炎、炎症性腸疾患、肛門疾患、甲状腺疾患また原発性肺癌・転移性肺癌や気胸などの呼吸器系等の症例も有り多岐にわたって診療を行っています。また、今年度は、内視鏡手術の件数も飛躍的に増加しております。

さらに、肛門疾患の手術件数は県内有数で、近隣からの紹介患者も多数受け入れております。

そして旧第２外科からの小泉が救急部門の責任者として、引き続き当院の救急患者の初期診療に携わっております。藤沢市北部地域、横浜市泉区・瀬谷区、大和市、綾瀬市の救急体制を担っている自負があります。

初期診療を行う症例も、敗血症やショックの重症症例や、交通外傷、肺炎等の感染症と多岐にわたり、初期診断を迅速に行うことを心がけ、各科の専門医とも連携し、可能な限り対応しております。

（文責：小泉泰裕）

荒川外科肛門科医院

〒116-0002　東京都荒川区荒川 4-3-11
TEL 03-3806-8213　FAX 03-3803-7224

人生100年の時代が到来している。患者さんへの説明も自然とその話に及ぶ。最近元気な高齢者も増え、人は一体いつまで仕事を続けるかが取りざたされている。患者さんの中にも80歳代で現役の方が目に留まり、その方達は皆一様に忙しそうだ。

約10年前、土屋周二先生より「もう仕事をしなくてよいのでは？」と言われたことを思い出す。その時代はまだ女性は積極的に仕事をするという時代ではなかった。その時は仕事を辞める選択肢があることにハットとしたが、現実は成り行きで働き今も続いている。働く場所があるのは有難いことだ。最近若い女子の間で、「専業主婦という言葉は絶滅危惧種よね」という話題が出てくるようになった。主婦業はいわゆる無限大の仕事であるがそれを理解できない御仁も男女共に存在する。このことはどうでもいいことかもしれないが、ご存知の通り猛スピードで動いているご時世であるから、人様々自分にあった生き方でいい。

当院での１年は比較的穏やかであった。一番恐ろしかったのは、国の補助でスプリンクラーの設置が義務付けられ、補助がでて実行された時のことだった。いつもの診療がはじまろうとする早朝、ドアの下から水が漏れ広がってきた。何かなと様子をみていると、どんどん床に水が浸みだしてくる。調べてみると、６階から１階まで続く主要配線箇所をまるで滝のようにザアザアととどまると

ころを知らず水が落ちてきて－直漠さながら－同時に各階の床にじわじわと水が流れ出てくる。本当に驚いた。患者さんたちのご協力もあり、結局、消防車が来てくれて全階の大量の水をバキュームで吸い取り、事なきを得た。点検時のバルブの閉め忘れが原因。とんだ点検だ。

さて、人は社会と経済は一体化であるというが、最近の情勢をみると利益追求が最優先だと思う。どこもかしこも経済効果を目標にしているかのようだ。医療に関してはいかがだろうか。同様な部分もあるが、政治と違うのは患者さんとの信頼関係が必須であることだ。

当院では手術時に、必要であれば手術中に大画面でリアルタイムに術野を患者さんや御家族に見ていただき、ポイントを説明しながら行っている。消化管内視鏡検査では、図に示すように件数は増加している。増加の最も大きな要因はスタッフに臨床検査技師・看護助手を加え、よりスムーズな体制で検査をすすめていけるようになったことである。腹部超音波検査では専門の臨床検査技師を導入し、異常があれば近隣の画像診断専門施設に送り、即座に対応できるようになっている。政治と医療ではやはり異なると思われる。信頼が得られなければ診療の工夫を行ってもやりがいがなくなるのではないだろうか。

ところで当院には女性医師が少ないと指摘されたことがある。H28年11月から横浜市大H13年卒の清水紀香先生が加わった。肛門科（内視鏡検査・外来・手術）の勉強をしたいという熱望と積極性があり、今後が楽しみだ。

当院は総勢55名のスタッフからなる。H28年５月から毎月１回集合し、厨房・管理（入院室などの掃除も含む）・事務・総務・看護・検査・医師、各々の役割を再確認し、疑問を話し合い提言する。以外と知らない院内の問題点が浮かび上がり、初心に戻り前向きになる。その際皆でいただく美味しい食事も楽しみだ。

荒川外科肛門科医院入口で消防隊と

［H28年の業績］

手術は、ALTA治療・痔核根治手術・裂肛根治手術・痔瘻根治手術・直腸脱・その他の手術（腰椎麻酔下）は総計約1000例。

内視鏡室件数：図参照。

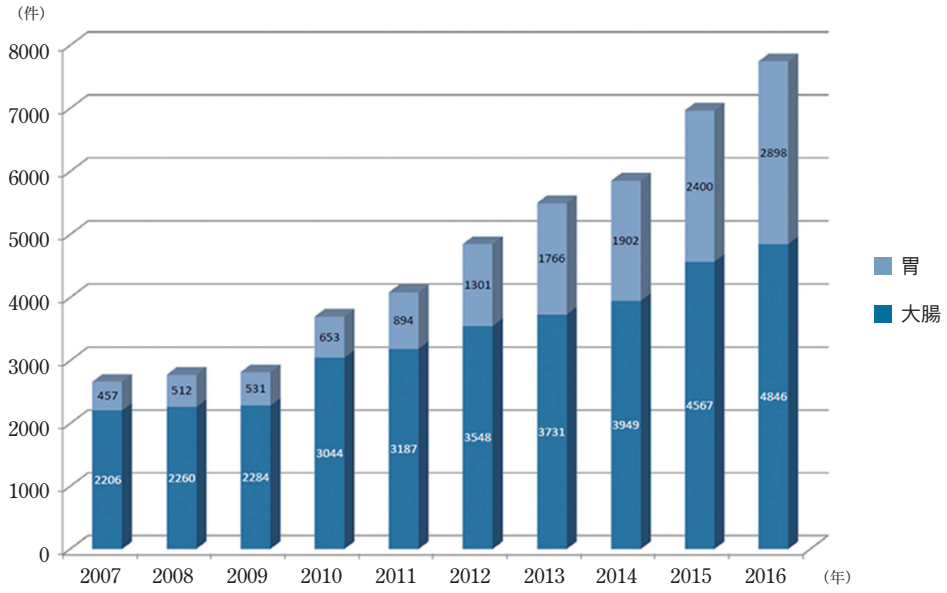
上部消化管は2898例、下部消化管は4846例であった。

腹部超音波検査は1888例。

H29年もどのような年度になるか、慎重に愉しむつもりだ。

（文責：大髙京子）

内視鏡検査件数



平成29年度 関連施設勤務者

（2017年４月１日現在）

●帝京大学ちば総合医療センター　外科

〒299-0111　千葉県市原市姉崎3426-3
TEL　0436-62-1211

講　　師	松尾　憲一（平.６）		

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575　横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL　045-851-2621　　FAX　045-853-8359

統括診療部長	関戸　　仁（昭.58）		
外科部長	松田　悟郎（平.５）	武田　和永（平.６）	
外科医長	清水　哲也（平.９）		
外科医師	柿添　　学（平.16）	矢澤　慶一（平.20）	坂本　里紗（平.21）
シニアレジデント	佐藤　清哉（平.27）	井上　　栞（平.27）	
非常勤勤務	太田　郁子（平.14）		

●横浜市立市民病院

〒240-0062　横浜市保土ケ谷区岡沢町56
TEL　045-331-1961　　FAX　045-332-5599

副病院長　炎症性腸疾患センター長	
	杉田　　昭（昭.54）
消化器外科担当部長	高橋　正純（昭.58）
乳腺外科長・市民病院癌センター担当部長	
	石山　　暁（昭.58）
ＩＢＤ部長	小金井一隆（昭.61）
消化器外科部長	望月　康久（昭.62）
乳腺外科部長	鬼頭　礼子（平.９）
ＩＢＤ医長	辰巳　健志（平.12）
副 医 長	大田　洋平（平.16）
臨床検査部	小林侑華子（平.27）

●藤沢市民病院

〒251-8550　藤沢市藤沢2-6-1
TEL　0466-25-3111　　FAX　0466-25-3545

院　　長	仲野　　明（昭.53）		
呼吸器外科部長	吉本　　昇（平.５）		
消化器外科部長	山岸　　茂（平.７）		
外科専門医長	牧野　洋知（平.８）	南　　裕太（平.13）	山本　晋也（平.16）
外科医員	後藤　晃紀（平.20）	南澤　恵佑（平.25）	堀内　真樹（平.27）
	酒井　　淳（平.27）		
診療部緩和ケア科主任部長	江口　和哉（昭.58）		

●伊東市民病院

〒414-0055　伊東市岡196-1
TEL　0557-37-2626　　FAX　0557-35-0631

診療部長・外科部長	神谷　紀之（平.４）

●横須賀市立市民病院

〒240-0195　横須賀市長坂1-3-2
TEL　046-856-3136　　FAX　046-858-1776

管 理 者	久保　　章（昭.51）		
副病院長・診療部長	亀田久仁郎（昭.63）		
外科科長	長嶺弘太郎（平.５）	峯岸　裕蔵（平.21）	山田　淳貴（平.24）
医　　師	泉澤　祐介（平.16）		

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042　茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL　0467-52-1111　　FAX　0467-54-0770

乳腺外科部長	山田　顕光（平.16）		
乳腺外科医師	高畑　太輔（平.25）		

●横浜労災病院

〒222-0036　横浜市港北区小机町3211
TEL　045-474-8111　　FAX　045-474-8323

乳腺外科部長	千島　隆司（平.３）		
乳腺外科医師	門倉　俊明（平.18）	木村　安希（平.25）	
外科医師	廣島　幸彦（平.15）	村上　剛之（平.25）	

●横須賀共済病院

〒238-8558　横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL　046-822-2710　　FAX　046-825-2103

病 院 長	長堀　　薫（昭.53）		
消化器病センター長、外科部長	舛井　秀宣（昭.62）		
外科副部長	野尻　和典（平.12）	木村　　準（平.15）	諏訪　宏和（平.15）
医　　長	吉田　謙一（平.８）	大石　裕佳（平.26）	小堀雄太郎（平.27）
医　　員	小暮　　悠（平.21）		
非常勤勤務	太田　郁子（平.14）		

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682　横浜市中区新山下3-12-1
TEL　045-628-6100　　FAX　045-628-6101

がんセンター長	阿部　哲夫（昭.48）		
緩和ケアセンター長　緩和ケア科部長	小尾　芳郎（昭.57）		
外科部長、肝胆膵外科部長、院長補佐	杉田　光隆（平.５）		
食道・胃外科副部長	小野　秀高（平.10）		
医長代理	渡部　　顕（平.16）		
外科医員	杉政奈津子（平.22）	阿部　有佳（平.23）	平井　公也（平.25）
	布施　匡啓（平.27）		
乳腺外科部長	清水　大輔（平.８）		
乳腺外科医員	鈴木　千穂（平.22）		

●済生会横浜市南部病院

〒234－8503　横浜市港南区港南台3-2-10
TEL　045-832-1111　　FAX　045-832-8335

副院長　主任部長　チーム医療総合教育センター長　福島　忠男（昭.62）
部　　長　長谷川誠司（平.２）　上田　倫夫（平.６）　高川　　亮（平.15）
医　　長　嶋田　和博（平.15）
医　　員　池田　孝秀（平.27）
診療顧問　部長　がん診療支援センター長　池　　秀之（昭.54）

●済生会若草病院

〒236-8653　横浜市金沢区平潟町12-1
TEL　045-781-8811　　FAX　045-784-5443

外科部長　簾田康一郎（昭.60）
医　　員　三辺　大介（平.２）　山口　直孝（平.13）

●JCHO横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585　横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL　045-331-1251　　FAX　045-331-0864

外科部長　上向　伸幸（平.６）　谷口　浩一（平.11）
医　　師　有坂　早香（平.20）　朴　　峻（平.23）
検 査 科　窪田　　徹（昭.61）

●JCHO横浜中央病院

〒231-8553　神奈川県横浜市中区山下町268
TEL　045-641-1921

医　　員　小笠原康夫（平.19）

●横浜掖済会病院　外科

〒231-0036　横浜市中区山田町1-2
TEL　045-261-8191　　FAX　045-261-8149

副 院 長　佐藤　芳樹（昭.59）
部　　長　森岡　大介（平.５）
医　　長　堀井　伸利（平.21）

●がん研究会有明病院　外科（大腸外科）

〒135-8550　東京都江東区有明3-8-31
TEL　03-3520-0111　　FAX　03-3520-0141

医　　員　鈴木　紳祐（平.19）

●仙台オープン病院　外科

〒983-0824　仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-22-1
TEL　022-252-1111

シニアレジデント　須田　　睦（平.26）

●がん・感染症センター都立駒込病院　外科（肝胆膵）

〒113-8677　東京都文京区本駒込3-18-22
TEL　03-3823-2101　FAX　03-3823-5433

医　　員　本間　祐樹（平.16）　山本　　淳（平.23）

●NTT東日本関東病院

〒141-8625　東京都品川区東五反田5-9-22
TEL　03-3448-6111　　FAX　03-3448-6558

化学療法センター長・外科主任医長	古嶋　　薫（昭.54）
医　　長	渡辺　一輝（平.11）
医　　員	山口　和哉（平.22）

●長津田厚生総合病院

〒226-0027　横浜市緑区長津田4-23-1
TEL　045-981-1201　　FAX　045-981-1205

医　　員	森　隆太郎（平.12）	平谷　清吾（平.18）

●育生会横浜病院

〒240-0025　横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL　045-712-9921　　FAX　045-712-9926

名誉院長	塩谷　陽介（昭.36）
院　　長	長堀　　優（昭.58）
医　　員	大山　倫男（平.18）

●神奈川県立こども医療センター　外科

〒232-0066　神奈川県横浜市南区六ツ川2-138-4
TEL　045-711-2351　　FAX　045-721-3324

	浅野　史雄（平.17）

●港南台病院

〒234-8506　横浜市港南区港南台2-7-41
TEL　045-831-8181　FAX　045-831-8281

	神谷　周明（昭.45）
診療部長	大塚　裕一（平. 8 ）

●聖路加国際病院　乳腺外科

〒104-8560　東京都中央区明石町9-1
TEL　03-3541-5151

医　　員	喜多久美子（平.17）

●松島病院

〒220-0041　横浜市西区戸部本町19-11
TEL　045-231-7311　　FAX　045-321-7330

理事長・総院長	松島　　誠（昭.53）
医　　員	長谷川信吾（昭.62）
非常勤職員	井上　英美（平.19）

●藤沢湘南台病院

〒252-0802　藤沢市高倉2345
TEL　0466-44-1451　　FAX　0466-44-6771

救急部　部長	小泉　泰裕（昭.61）

●関沢クリニック

〒236-0053　横浜市金沢区能見台通8-28
TEL　045-786-8852　　FAX　045-786-9293

医　　員	関澤健太郎（平.19）